

青葉通

あおばどおり

1/2

宮城県仙台市

ウォーカブル推進都市

■人 口 1,063,198人

■所在地 宮城県仙台市青葉区

■路線データ



軒先利用



再構築



地域資源活用



ビジョン策定



地図出典：OpenStreetMap



■取組の概要

青葉通は、仙台駅から西公園を結ぶ「杜の都」仙台市を象徴するシンボルロードであり、豊かなケヤキ並木とともに市民や来訪者に親しまれてきた。一方で、タクシーや荷捌き車両の停車が円滑な交通の妨げとなっているほか、歩行者と自転車の交錯や放置自転車が問題化するなど、円滑で安全な交通に向けた対策や交通安全上の配慮が課題となっていた。また、商業地の広がりや回遊性に乏しく、商業機能の活力が低下する等、回遊性のある賑わい空間の形成や個性ある街並み形成が課題となっていた。

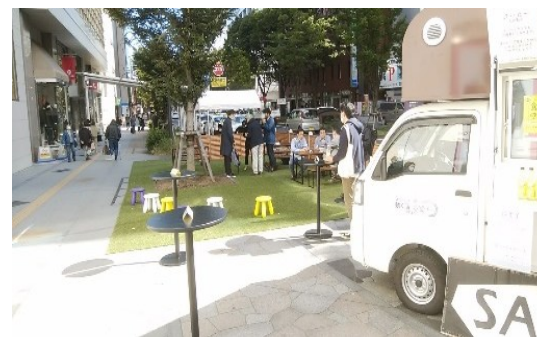
そのため、地下鉄東西線の建設を契機としてさらに魅力あるまちづくりを推進するため、ケヤキ並木・道路空間・街並みが一体となった再整備を実施した。その後、町内会や沿道企業等で構成される青葉通まちづくり協議会が主体となり、公共空間を活用した社会実験等の取り組みを進めている。

■再構築

タクシー乗り場や荷捌きスペースの確保、交差点への右折レーンの設置を行い、円滑な交通を実現した。また、車道を3車線から2車線へ減少させ歩道を拡幅するとともに、創出した空間の一部を沿道特性に応じて歩行者滞留スペースや賑わい空間等に配分した。この賑わい空間を活用し、青葉通まちづくり協議会が主体となり、マルシェイベントやキッチンカーの企画・開催、芝生や休憩施設を設置する等の社会実験を実施している。

■ビジョン策定

青葉通まちづくり協議会は「人と人、人とコトをつむぎ、さらなる魅力と新たな価値が生まれる『青葉通』～東北の経済の中心として、次世代を牽引する～」を将来像として掲げ、青葉通が果たす役割を明確化した「青葉通まちづくりビジョン」を策定し、市長に提言。その後、同協議会は青葉通におけるまちづくりの方向性と具体像を明確にし、将来像の実現に向けて具体的なまちづくり手法を「青葉通まちづくり方針」として取りまとめた。



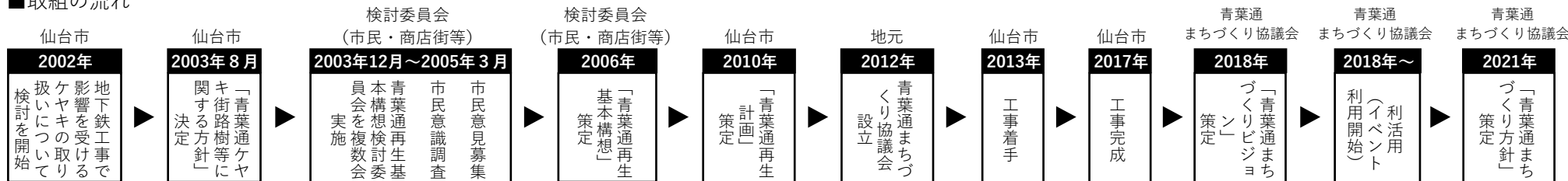
青葉通

あおばどおり

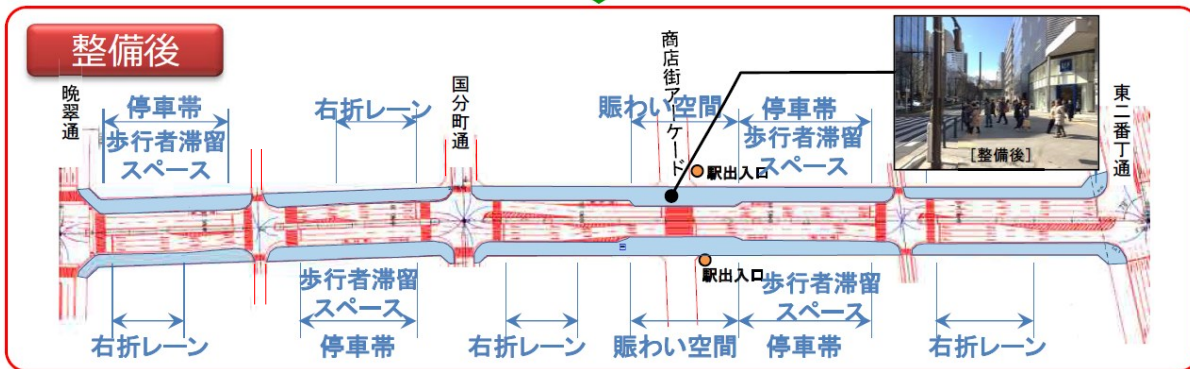
2/2

- 都市区分 政令指定都市
- 用途地域 商業地域
- 路線延長 約1.5km
- 再整備区間 約1.0km（西公園通～東二番丁通）
- 整備年代
 - ・構想・設計：2002～2012年
 - ・整備（工事）：2013～2017年
 - ・利活用：2018年～
- 取組が位置づけられている計画、ビジョン等
 - ・仙台市実施計画
 - ・仙台市都市計画マスタープラン
 - ・青葉通まちづくりビジョン（2018年6月）：まち協
 - ・青葉通まちづくり方針（2021年7月）：まち協
- 活用した国の施策・制度
 - ・社会資本整備総合交付金
 - ・防災・安全社会資本整備交付金
- 問い合わせ先
 - ・仙台市都市整備局市街地整備部都心まちづくり課

取組の流れ



- 参照資料
 - ・官民連携による街路空間再構築・利活用の事例集



- 整備主体
 - ・整備：仙台市
- 整備・再構築状況
 - ・車道を3車線から2車線へと減少させ、創出した空間を沿道の特性に応じて歩行者滞留スペースや賑わい空間等に配分した
- 利活用団体
 - ・青葉通まちづくり協議会（まち協）
（構成員：周辺商店会、町会、企業、個人）
- 利活用状況
 - ・キッチンカーやマルシェ等のイベントの定期開催や、ストリートファニチャーの設置等の日常的な滞留空間づくりをまちづくり協議会が主体となり実施